

1 笠間市教育振興基本計画（素案）について

11/2(水)現在→11/10(木)修正

項	項目	内容（指摘事項）	新項	対応結果
	全施策共通事項	全項に亘り、言葉の言い回しの部分を精査した方が良い。 数値目標に対する意味が分かるよう、どこかに標記したほうが良い。	— 7 5 P 7 6 P	全体的な文言の修正を行いました。 「第4章 基本計画」の最後の項に「数値目標一覧」を作成しました。
1 P	福祉計画等について	社協で策定した「地域福祉活動計画（H27-H31年度）」について、学校と連携した取組等もあるので、関連計画として取り入れてほしい。 →教育に関係する部分については取り込んでいくよう内容を精査します。	1 P	「第2次笠間市地域福祉活動計画」を盛り込み、位置図の修正を行いました。
2 1 P	教育目標について	笠間市は、その周囲を「八溝山系と愛宕山系の山々に囲まれ、…」とあるが、新笠間市の歴史（平成23年発行）に表現されている「八溝山地の鶏足山塊と筑波山塊の…」の文章の方が適切ではないか？	2 4 P	新笠間市の歴史（平成23年発行）に合わせ、修正を行いました。
2 5 P	現況と課題について	2 段目にある「幼児期の学校教育」という表現については、適切か？（文科省での言い方なのか？幼児期の教育ではないのか？）	2 8 P	文部科学省の「子ども・子育て関連3法」における定義により「幼児期の学校教育」が適切と判断し修正なし。
	就学前教育について (円滑な移行)	3 歳児，5 歳児，就学時健康診断もあるが、健診をどれだけ受けているか？等により、特別な支援（配慮）を必要とする子どもの早期発見にもつながったり、小学校就学時にもスムーズに移行できると考えているので、その辺も考慮していただきたい。 →関係機関等との連携を図り内容を精査する。	2 9 P	今年度から開催している連携のための研修会等を盛り込み、修正を行いました。
	インクルーシブ教育について	連続性のある取組に。県から出ている文言等に修正してみては。	2 9 P	3 8 P（4）特別支援教育の充実へ反映しました。
2 6 P	幼児演劇鑑賞会事業について	事業対象は友部公民館のみか？ →外部評価でも指摘を受けた部分だが、現在3館において内容を精査中である。	2 9 P	3館均等に鑑賞できるよう改善を図るため、修正を行いました。
2 7 P	数値目標について	高齢者との交流会の指標が適切か？活動数自体を数値目標として挙げるのはどうか？ 活動数を増やしたから何かと運動して数値が良くなっていくという事が見えてこない数値目標を立てる意味が無い。例えば、ここの数値を上げることによって、楽しいと感じる子が増えてきた、とか。参加人数がH27で63人だが、H33には1,000人になるとか、数値の立て方と運動の仕方が見づらい。	3 0 P	一貫した指導・支援に取り組むための、数値目標の変更を行いました。
2 8 P	学校教育の充実について	現況と課題の中に、特別支援に関する記述が一切ない。笠間市において、どのような学級があるとか、通級指導の教室も持っているわけなので、記述しアピールしていくことが大事。	3 1 P	他の施策等と重複記載になるため、この項への追記は行わず。ただし、3 8 P（4）特別支援教育の充実「今後の方向性」へ反映しました。
	豊かな心の育成について	各学校には、「豊かな心育成コーディネーター」が配置されていると思うので、文言として追記した方が良い（道徳主任や、教務主任が担当していると思う）。	3 1 P	「いばらき教育プラン」及び「学校教育指導方針」に記載がないため、追記は行わず。
2 9 P	スクールソーシャルワーカー事業について	スクールソーシャルワーカーを設置しているのは近隣でもあまり例が無く素晴らしい取組であるので、内容をもっと強調して盛り込んだほうが良い。	3 1 P 3 2 P	「現況と課題」及び「主な取組」について、修正を行いました。
3 0 P	数値目標について	不登校率の基準値（4%）については、小中学校の合計か？→心の教室相談事業の数字であれば中学校のみでH27の基準値について、これまでの数値が分からない（右肩上がりか否か？等）ので、目標値が変わらないのであれば、これまでの施策が有効であったかという事を示した方が読みやすくなる。4%という値は低いので、H33は0%を目指してもよいのではないか。 →グラフ等を用い、分かりやすい表現（見せ方）に精査する。 相談員数は増えないのに、不登校者数は減る考えか？	3 3 P	3 1 Pへ過去の数値（心の教室相談員数と不登校割合）を記載し、比較しやすいよう、修正を行いました。

項	項目	内容（指摘事項）	新項	対応結果
3 1 P	英語教育強化推進事業について	数値目標として、英検の受験者数（合格者数）等を入れた方が良いのではないかと ぜひ取り入れてほしい。	3 5 P	笠間市総合戦略のKPIと同様「英語検定試験の合格者率（中学校3年生時点・3級以上）」について、数値目標を設定しました。
3 2 P	数値目標について （学力診断、県平均点数との比較）	茨城県の平均は高すぎるので、その辺を踏まえた目標設定にしても良いのではないかと 平均の比較について、毎年対象者も変わるし、この表記で良いのか？ 比較が平均正答率であるため、適切かどうかという部分がある。 授業が楽しいと思えるような割合の部分に指標を設定しては？	3 5 P	全国平均との比較とする、数値目標の変更を行いました。
3 3 P～ 3 4 P	食育の推進について	県としても食育について推進している部分もあるので、取組む内容を膨らませた文言があると分かりやすい。	3 6 P～ 3 7 P	全体に亘り「食に関する教育」についてを記載し、数値目標を設定しました。
3 3 P （他項含）	小学校（中学校）教育振興事務【学務課】について	教育振興事務とは具体的にどういった内容か？事務といった表現が分かりづらい。 →明確に、分かりやすい取組を記載します。	3 6 P 4 1 P	取組む内容を分かりやすく記載しました。
3 4 P	全国体力・運動能力調査 （県平均との比較） 数値目標について	茨城県は全国で8位であるため、目標値である+2点は高すぎないか？比較対象を県ではなく、全国にしてはどうか？	3 7 P	小中学校別に全国平均との比較とする、数値目標(比較から割合へ)の変更を行いました。
3 5 P	特別支援教育の充実について	細かい文言のすり合わせが必要と思われる。 （県から出ている支援計画を基に、文言の整理をした方が良い） インクルーシブ教育について内容を丁寧に記述した方が良い（文科省でも、連続性のある教育を強調している。学びの場という事を意識した方が良い）。	3 8 P 3 9 P	インクルーシブ教育について、「今後の方向性」に記載するとともに、数値目標を設定しました。
3 6 P	数値目標について	支援員数を配置することが効果にはつながらない。教育支援体制をどのように作っていくかが大切である。	3 9 P	支援員数のほか、「個別の指導計画作成率」として、新たに数値目標を設定
3 9 P	キャリア教育について	将来笠間市に定住し、笠間市で活躍する人材をとあるが、国際化やグローバル化との整合性については。 グローバル化が進む今、郷土に住み続ける人を育てるのは逆行。どういった子を育てたいのか見えない。活躍して戻って来てほしいということか？ 自分自身を知る教育（キャリアデザイン）を事業に取り入れると笠間らしさが出る。 今目指しているものが分かれば良いと思う。	4 3 P	キャリア教育の推進を図るための取組内容へ記載するとともに、数値目標を設定しました。
4 6 P 4 7 P	生涯学習・文化活動の推進について 地域交流センターと公民館との役割について	公民館の良い部分（社会教育プログラムを組む）を前面に出し、新しい人を巻き込むような施策を打ち出して 公民館の利用者数だけでなく、地域交流センターの利用者数や事業の内容が評価に入るような仕組みを考えて	5 0 P	新たな施策及び既存事業との統合拡大等について、関係所管課と検討して参ります。 地域交流センターの利用者数について、新たに数値目標を設定しました。
6 3 P	図書館資料の充実について	視聴覚教材を増やしてほしいという要望もあるので、目標というか、表現の中に記載しても良いのではない	6 5 P	「今後の方向性」に記載しました。
6 8 P	学校図書館との連携について	取組内容として、具体的に「読み聞かせ」等ということか？	7 0 P	「主な取組」を分かりやすく記載しました。
7 1 P	笠間図書館施設の老朽化について	現況と課題に記載のある、「老朽化が進む笠間図書館」とあるが、築10年程度で老朽化しているという表現	7 3 P	文言の修正を行いました。